

いわた
文化財だより 第221号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和5年8月1日発行

目次

- 中世の見付 ～遠江の中心ミッケ!～・・・ P1～2
- 『大正時代のいわた』開催中・・・ P3
- 旧見付学校「昔の授業体験」参加者募集・・・ P4
- コラム『一の谷中世墳墓群遺跡と私』
木村弘之・・・ P4

開催中

文化財課企画展

中世の見付

～遠江の中心ミッケ!～



文化財課キャラクター
ともちゃん

令和5年
7.29(土) → 8.27(日)

時間 / 9:00 ~ 17:00 休館日 / 月曜日・8月25日(金)

会場 / 磐田市立中央図書館展示室

現在、「中世の見付」をテーマに企画展を開催しています。見付は、約1,100年前の平安時代中頃に遠江国の役所である国府（現在の県庁に相当）、鎌倉時代には守護（幕府から派遣された役人）の館である守護所が置かれ、遠江国の政治・経済の中心地として発展してきた歴史ある町です。

今回の企画展では、見付の遺跡で見つかった陶磁器や、当時の生活道具などの展示を通して中世の見付の町を紹介します。ぜひ、企画展で見付の魅力を感じてください。

みどころ 1 国府、守護所の推定地から出土した陶磁器類

国府・守護所の推定地である見付^{はじょう}端城遺跡^{すずり}からは、役人の使う硯^{かいゆう}のほかに灰釉・緑釉陶器、中国産の輸入陶磁器などが多量に出土しました。展示する輸入陶磁器には花の模様が描かれたものもあります。ぜひ、模様にも注目してご覧ください。



模様の描かれた陶磁器



左の陶器に描かれた花の模様

みどころ 2 一の谷中世墳墓群遺跡から見つかった出土品

一の谷中世墳墓群遺跡は、平安時代末から江戸時代のはじめにかけて造られた日本最大規模の墳墓群です。国府・守護所の役人や見付に住んだ町人などが葬られたと考えられています。

墓からは骨蔵器の他に、副葬品として、国産・中国産陶磁器、全国的に希少な小型銅製五輪塔などが出土しました。ぜひ、出土品をご覧ください。



小型銅製五輪塔
(全長約3cm)



出土した
中国産輸入陶磁器

みどころ 3 初公開の出土資料

平成30年度におこなった見性寺^{けんしょうじ}遺跡^{どすい}の発掘調査で、古代から中世の土器、土錘や、舟材などが出土しました。これらの資料を今回、初公開します。

見付に暮らしていた人々の生活に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



見性寺遺跡から出土した土器と土錘(黄色枠)



今川義元が見付の町人に送った書状(弘治3年1557)
(市指定文化財「成瀬家文書」のうち)

みどころ 4 今川氏の書状

戦国大名今川義元が、遠江国の本格的な支配に伴い、見付の町に税を負担させるために送った書状を展示します。原本は、期間限定(8月18~27日)で特別に展示します。

募集中

講演会『今川了俊と足利義教が見た中世都市見付 ～一の谷中世墳墓群遺跡の陶磁器に注目して～』

と き：令和5年8月26日(土)14:00から

と ころ：磐田市立中央図書館2階視聴覚ホール(磐田市見付3599-5)

内 容：中世都市研究の第一人者が、全国の中世都市との比較から見付の特徴について分かりやすくお話しします。

講 師：鋤柄俊夫氏(同志社大学文化財保護研究センター研究員)

定 員：130名(応募多数の場合は抽選)

参加無料

申 込：8月7日(月)まで受付 電子申請または電話で文化財課へ(0538-32-9699)



電子申請
二次元コード

歴史文書館レトロ写真館

『大正時代のいわた』開催中

歴史文書館1階展示コーナーにて、歴史文書館レトロ写真館『大正時代のいわた』を開催しています。

大正ロマンと称され、和と洋が融合されたオシャレな時代。今から100年前の磐田はどのような様子であったのか、また、この時代を生きた人々はどのような装いであったのかにスポットを当ててみました。ぜひ、歴史文書館で『大正時代のいわた』をお楽しみください。

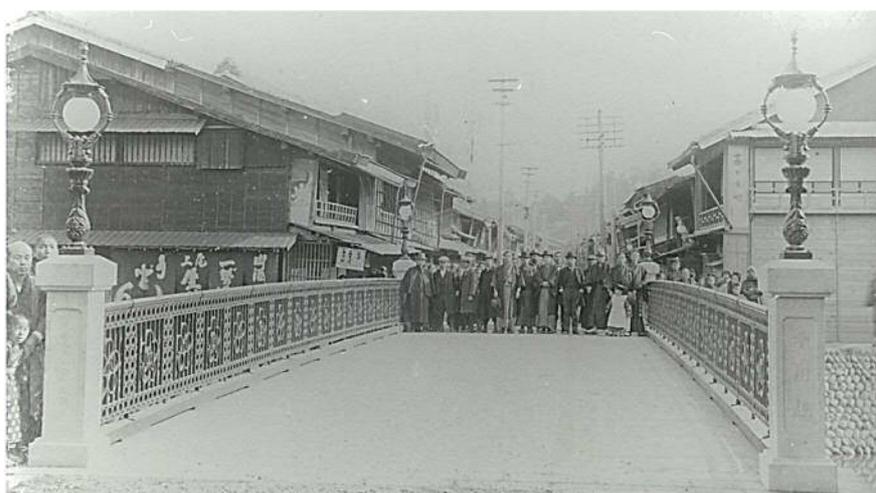
と き：10月20日（金）まで
8時30分～17時
ところ：歴史文書館（磐田市岡 729-1）
休館日：土曜・日曜・祝日



展示写真紹介

大正元年（1912）12月に完成した中川橋を写したものです。橋につけられた照明灯がモダンなデザインをしています。

写真の左端には、カメラ側を覗き込む和装の少年が写っています。ぜひ、会場で確認してみてください。



大正元年中川橋の開通

大正初期に撮影された、テニスラケットを手にした見付高等女学校の生徒の写真です。髪型と服は和装ですが、足元は靴を履き、和と洋が融合した服装をしています。

会場では、この他にも加茂川で水遊びをする子どもの風景や、木製の車が写った写真など計25点を展示しています。ぜひ、会場でお楽しみください。



大正初期の女学生

9月1日から受付開始！ 旧見付学校「昔の授業体験」参加者募集



現存する日本最古の木造擬洋風小学校校舎である旧見付学校で、かすりの着物を着用して明治時代の小学生になった気分でご国語や唱歌、体操の授業を体験してみませんか。



授業体験の様子

とき：9月17日（日） 9：30～11：30

ところ：旧見付学校（見付 2452-1）

対象：小学生 定員：約 30 名 参加費：500 円

申込：9月1日（金）～9月7日（木）

①参加者②学校名③学年④身長⑤保護者の住所・氏名・電話番号を記載してメールにて旧見付学校に申込

<申込・問合せ> 旧見付学校（月曜、祝日の翌日休館）

TEL&FAX 0538-32-4511 メール iwata-mitsuke@uv.tnc.ne.jp

職員リレー コラム

一の谷中世墳墓群遺跡と私

木村 弘之

現在、中央図書館で文化財課企画展『中世の見付 ～遠江の中心ミッケ！～』をおこなっている。ここでは、かつて、水堀地区にあった「一の谷中世墳墓群遺跡」（以下、一の谷遺跡）の遺物を一部展示中である。

一の谷遺跡は、私が昭和 61 年に臨時職員（調査員）として採用され、初めて従事した中世墓の発掘調査である。翌年からは、市職員として従事した。発掘調査が終了して 35 年。当時、現地調査員は 6 名いたが、今では現職で当時の発掘調査の様子を知る調査員は私のみとなった。

そもそも、この「一の谷」という名称の由来は、何処からきたのであろうか。通常、遺跡名は、その場所の地名や字名を冠して付ける。この一の谷遺跡の場合、元は「幸町遺跡」という名称であり、字名は本来「四ツ塚」である。

しかし、当該地の北方に「二ノ谷」、「一ノ谷」という字名があること、中世といえば、源平合戦の「一の谷の合戦」を彷彿とさせることもあり、その名称を「一の谷」という遺跡名に変更したという話を聞いている。

一の谷遺跡は、遺跡をそのまま残すことは叶わなかったが、「記録保存」により後世へと残した。旧磐田市では「一の谷遺跡は調査記録で後世へ」（『広報いわた』No.858・昭和 63 年 2 月 15 日号）と題し、一の谷遺跡を広く市民に周知した。

また、埋蔵文化財センターでは 75 分の 1 スケールの墳墓の模型が展示中である。

この夏、「中世の見付」をミッケに展示をご覧いただければ幸いです。



集石墓の調査風景

編 企画展と歴史文書館、旧見付学校は文化財
集 スタンプラリー-2023 対象施設です。記念
後 品の缶バッジはここでしか手に入らないオ
記 リジナルです。ぜひ、ご参加ください。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部 行ってみよう！
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699
◆WEB 版は市 HP から閲覧できます。磐田 文化財だより 検索